歴史研究へのデジタルアーカイブの活用

―歴史資料のデジタル画像からなにを読みとるか？―

第7回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー
デジタルアーカイブズ構築事業の成果紹介とこれからの活用を考える
2023年12月13日

史料編纂所　木下竜馬

講師自己紹介

- 木下 竜馬（きのした りょうま）　1987年生。
- 専門：日本中世史。特に鎌倉幕府や御成敗式目などを研究。
- 2013-2019：国立国会図書館職員。
- 2019-：東京大学史料編纂所員（現在に至る）。
- ですが……今回はデジタルアーカイブの一利用者として登壇。

今日の話は…

- 第1章：歴史研究者にとってのデジタルアーカイブ
- 第2章：デジタルアーカイブ活用の実例
- 第3章：ウェブ公開を歴史的に考える

第1章：歴史研究者にとってのDA

- 世はまさに…

大公開時代！！

- 歴史資料（史料）の画像が多くウェブ公開される。

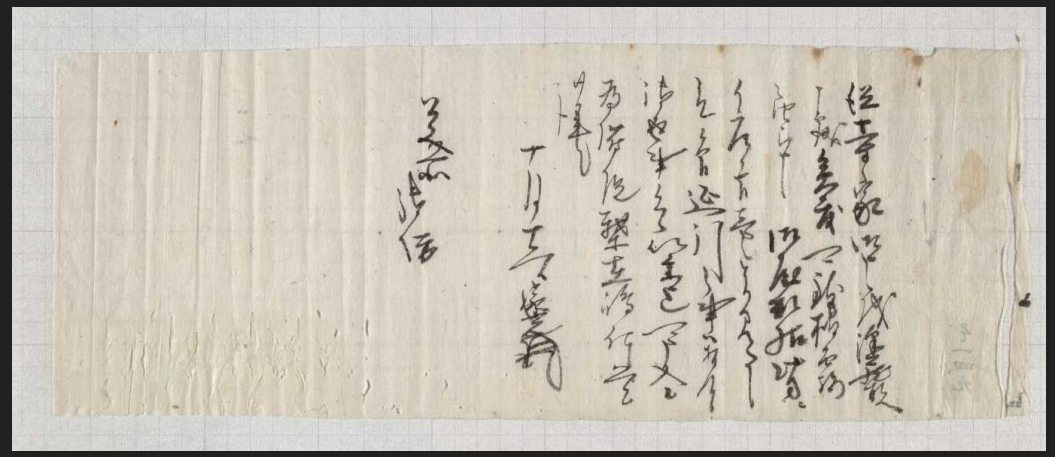
第1章：歴史研究者にとってのDA

- 史料画像がウェブで公開されると……

うれしい！！！

- なぜうれしいのか？考えてみた。

史料の位相



翻刻

一一四　寒川家光書状（切紙）

○コノ文書ヨリモ第一一七號文書ニ至ル四通、山城國上久世莊ニ相關連シ、差出者寒川家光ノ花押形狀ハ文龜三年六月下旬以降ノモノト推定セラル、且ツ文中ノ澤藏軒宗益・細川政元等ノ動向ヲ按ズルニ、コレラ文書ノ年紀、文龜三年ナルベシ、尚、本紙端ニ切封ノ紐殘レリ、

（端裏切封墨引）

東寺申分ニ就テ澤藏軒ニ細川政元ヘノ取次ギヲ頼ム　政元槇島ニ滯在ス

○縦一六・六糎、横四三・一糎

従寺家御申候儀、澤藏軒（宗益赤澤朝經）へ』申候處、急度可致披露』之由被申候、　御屋形（細川政元）様此方ニ』御座候間、旁〻とりゑさし』候て候間、延引之事ハ存て候、』御返事候ハヽ、以參上可申入候、』爲催促、我才在嶋（山城久世郡槇島）仕候、恐〻』謹言、

十月十二日　家光（寒川）（花押122）

公文所（淨成下野）

御坊

山城国上久世庄公文寒川家光書状（「東寺百合文書」そ函149）、および『大日本古文書　東寺文書之十八』そ114号

史料の位相

原本系

- 原文書
- 謄写本
- 影写本
- マイクロフィルム
- デジタル写真

翻刻系

- 論文に翻刻・引用
- 史料集として刊行
- テキストデータ

史料の位相

- 新史料とは
  - 原本が知られていない：学界未紹介、新出（⇔既出）
  - 翻刻されていない：未翻刻（⇔既翻刻）
- デジタル史料画像がウェブ公開されると…
  - 新出かも？
  - 既出でも……未翻刻かも？
  - 既翻刻でも……既存の翻刻を改めたり、もっと他の情報が得られるかも？

第2章：DA活用の実例

- 日本中世史研究者としてどうデジタルアーカイブを使っているか？
- 2つの実例をあげて解説する。

実例その1：東寺百合文書WEB

- 東寺百合文書WEB
  - 京都府立京都学・歴彩館が運用。
  - 館蔵の東寺百合文書（国宝・「世界の記憶」）のデジタル画像をCC BYで提供。
- 山城国上久世庄公文寒川家光書状（「東寺百合文書」そ函149）
  - https://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/contents/detail.php?id=22429

実例その2：東京大学学術資産等アーカイブズポータル

- 東京大学総合図書館所蔵「御成敗式目」（康永二年書写）
  - 平林治徳旧蔵。1930年に古典保存会からコロタイプ複製版刊行。
  - https://dl.ndl.go.jp/pid/1882887/1/15
- 東京大学学術資産等アーカイブズポータルでデジタル画像が公開。
- https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/1dc60eb8-0dd2-1716-521a-8b436e899759#?pos=13

第3章：ウェブ公開を歴史的に考える

- 史料画像のウェブ公開：基本的にめでたいこと。どんどんやるべき。
- しかしそれだけでいいのか？歴史的に考えてみる。

→江戸後期の古典籍出版隆盛。「大公開時代」の先蹤としての「群書類従」（1786-1819）

第3章：ウェブ公開を歴史的に考える

- 「一巻二巻の書をとりあつめて、かたぎ（板木）にえり（彫）おきなば、国学する人のよき助けなるべし」（中山信名「温故堂塙先生伝」より、塙保己一が「群書類従」刊行を発願するくだり）
- 大名たちが書物を集めても、蔵に置いたまま見る人もなければ意味がない。「もしまことに古書をめで給う心ざしあらば、（中略）あだし本どもをよみ合わせ、よきをえらばせて、板にえら（彫）せて、世にひろめ給はむは、よろづよりもめでたく、末の代までのいみじき功なるべし」（本居宣長「玉勝間」）

⇒近世後期の出版≒現代のデジタル画像公開？

第3章：ウェブ公開を歴史的に考える

- さきほどの「玉勝間」で、本居宣長は手放しで版本刊行を推奨しているわけではない。
- 「業者が善本かどうか精選せずに刊行するのはおろか、知識のある人間が刊行しても誤りが多い。しかしひとたび版本が出ると、さまざまな写本は次第に廃れていき、版本を他本で訂正することすら難しくなってしまう。これは版本があることの害である。」（一部意訳）

第3章：ウェブ公開を歴史的に考える

- 「群書類従」の問題点：雑多、校訂不十分、底本不明、解題なし…etc.
- 明治期に「続群書類従」や「史籍集覧」など後続叢書相次ぐ。「とりあえず版行すればよい」という態度は昭和初期まで続く。
- 昭和戦前期の『国書解題』事業計画されるも、戦後『国書総目録』に転進。
- 『群書解題』が作成されるのは1960-1967。

⇒課題：トレーサビリティ確保。解題的情報の充実。